

(6) 地区別の将来人口等

○地域別の将来人口推計にあたっての前提条件等は以下のとおりです。

「将来人口推計の方法」

推計年	平成 52 年 (2040 年)
推計地区単位	町丁目・字別
基準人口	平成 22 年国勢調査 (小地域集計, 年齢 (5 歳階級))
推計手法	コーホート要因法 ・推計に用いる仮定値 (生残率・純移動率・子ども助成費・0-4 歳性比) は、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口 (平成 25 年 3 月推計)』の行政区別仮定値を用い、行政区内の町は同一仮定値として推計

「地区別の人口等の算出対象等について」

- ・地区別の人口の動向等については、算出の対象を市街化区域 (工業専用地域・臨港地区等を除く) としている。
- ・地区別の人口密度については、道路や公園などを除く可住地を分母として算出している。

「留意事項」

- ・国立社会保障・人口問題研究所において、行政区単位の将来人口は推計されているものの、地区単位の将来人口は推計されていません。
- ・本市の人口は将来的にも減少し続けると予測されていますが、地区単位で見ると将来的に人口増加する地区、又は人口減少が顕著な地区等、人口変動の特性は異なることが考えられます。
- ・国立社会保障・人口問題研究所における人口推計手法を参考として、各地区の人口変動の特性を把握していきます。

①人口

○将来人口を地区別に見ると、総人口が減少するなか、小倉都心とその周辺、八幡西区北部、小倉南区西部などでは一定の人口集積がみられます。

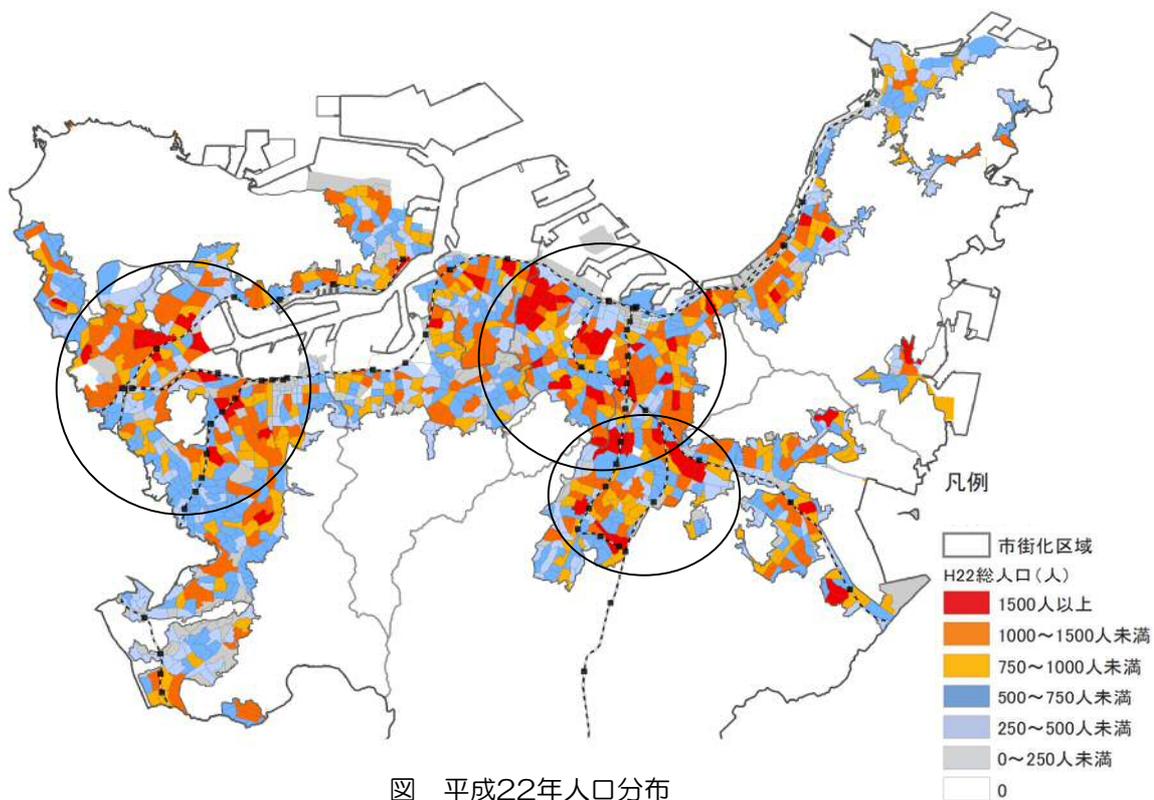


図 平成22年人口分布

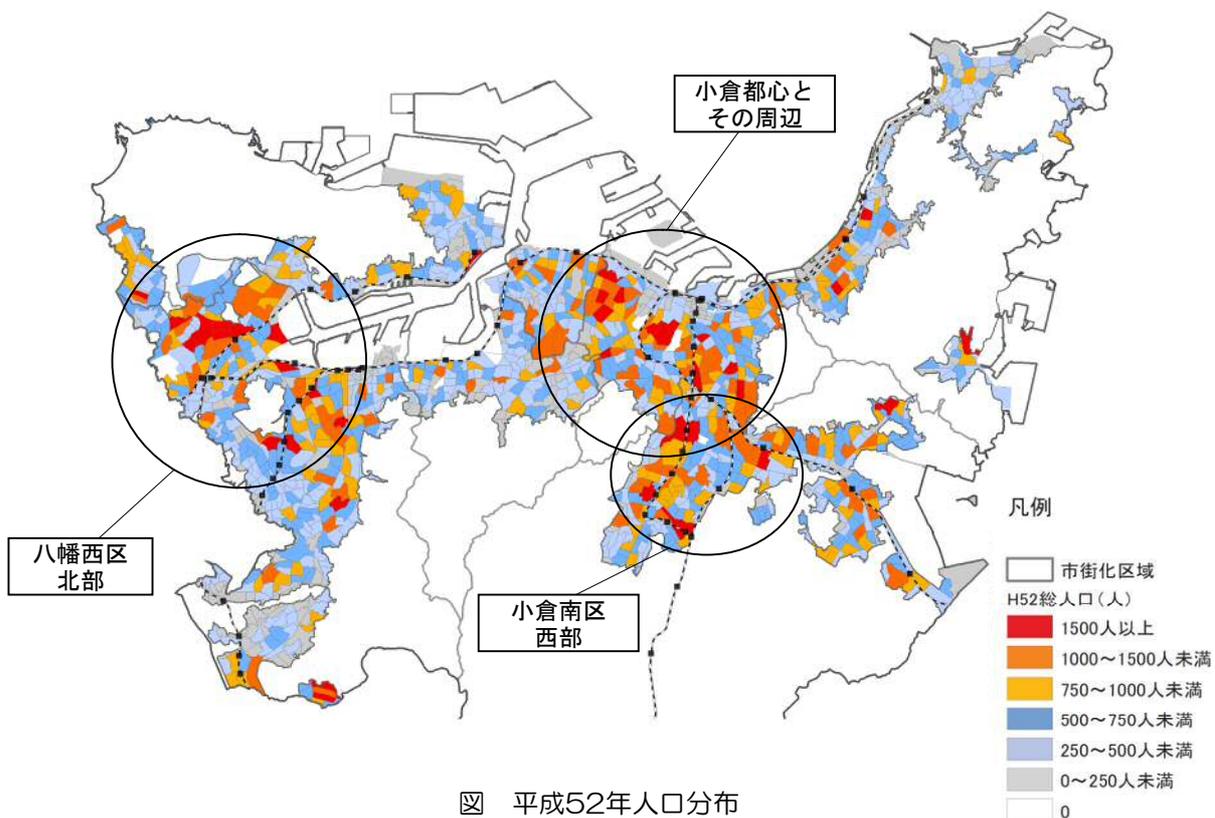


図 平成52年人口分布

②人口密度

○人口密度を地区別に見ると、八幡東区、若松区東部、門司区北部などで密度が大きく低下してい

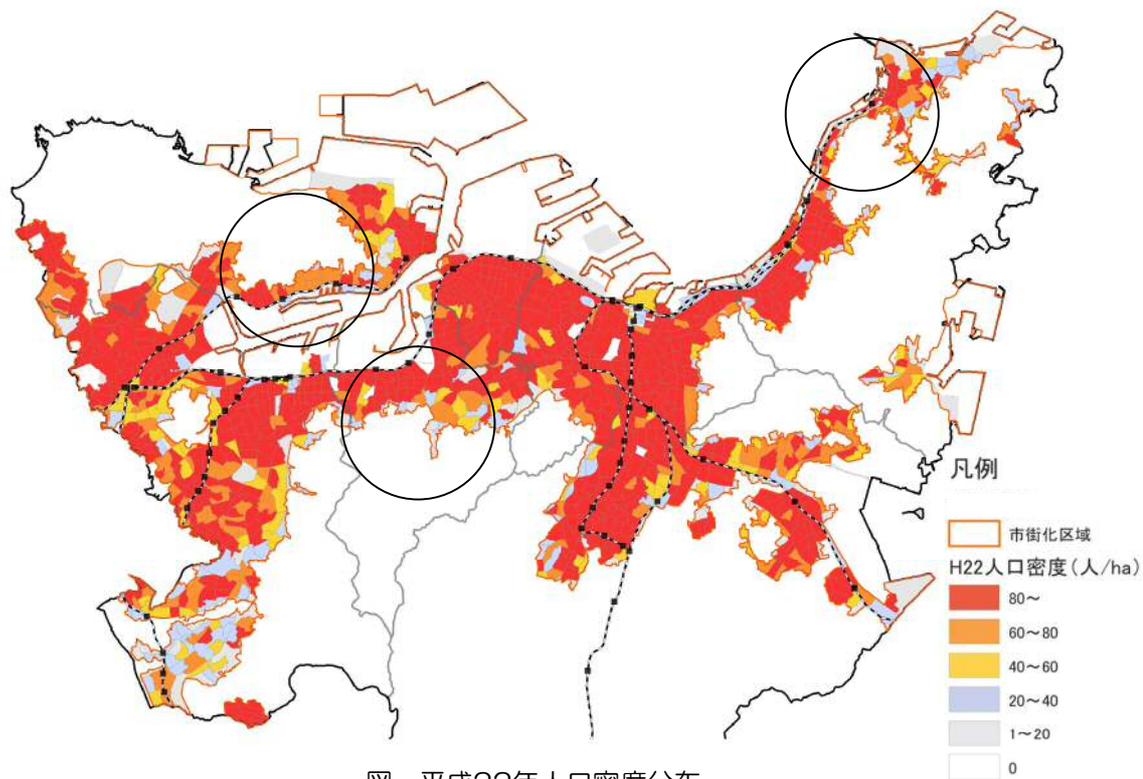


図 平成22年人口密度分布

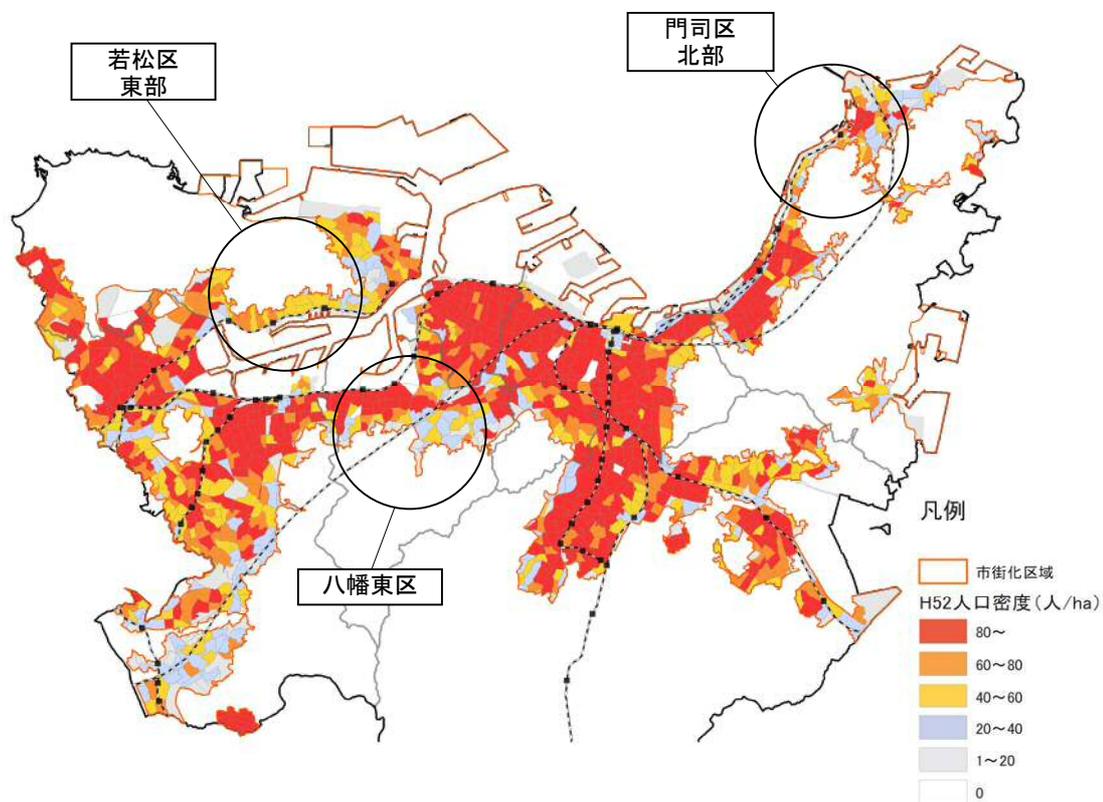


図 平成52年人口密度分布

③高齢者人口

○高齢者人口密度を地区別に見ると、全体的に高齢者が増加するなかで、特に、小倉都心とその周辺、黒崎周辺、モノレール沿線、門司区南部などで密度が高くなっています。

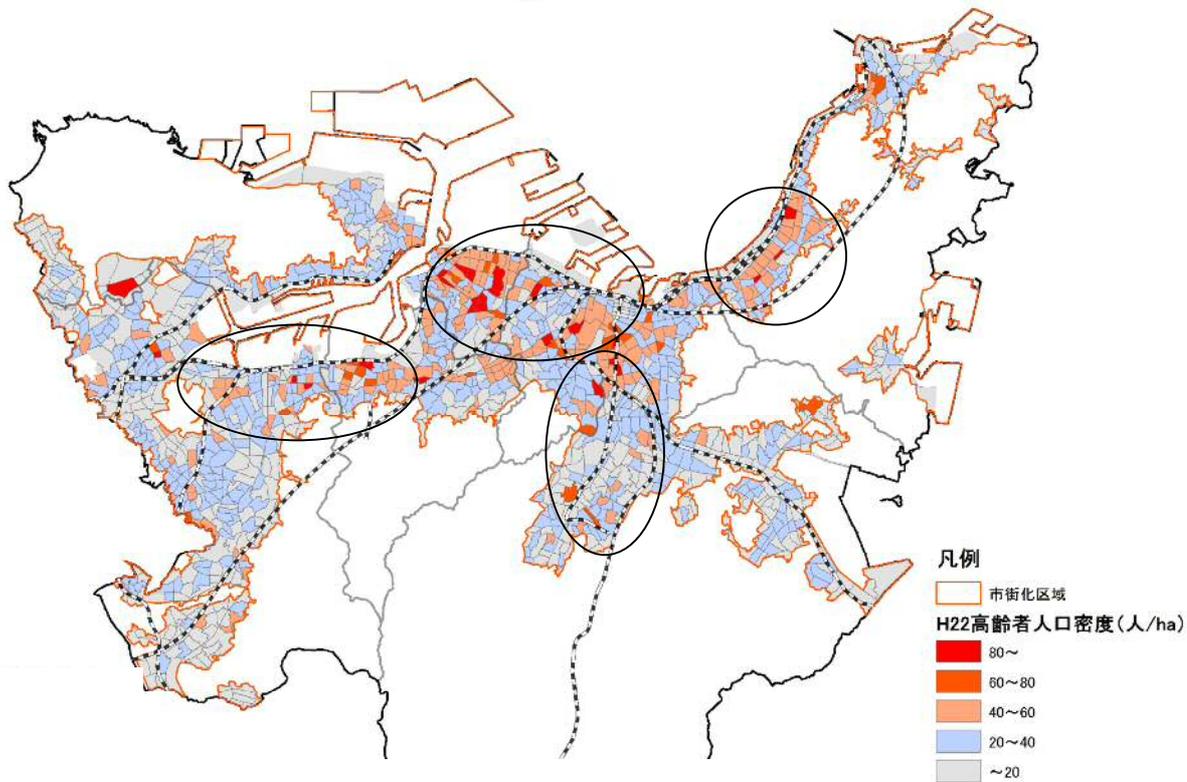


図 平成22年高齢者人口密度

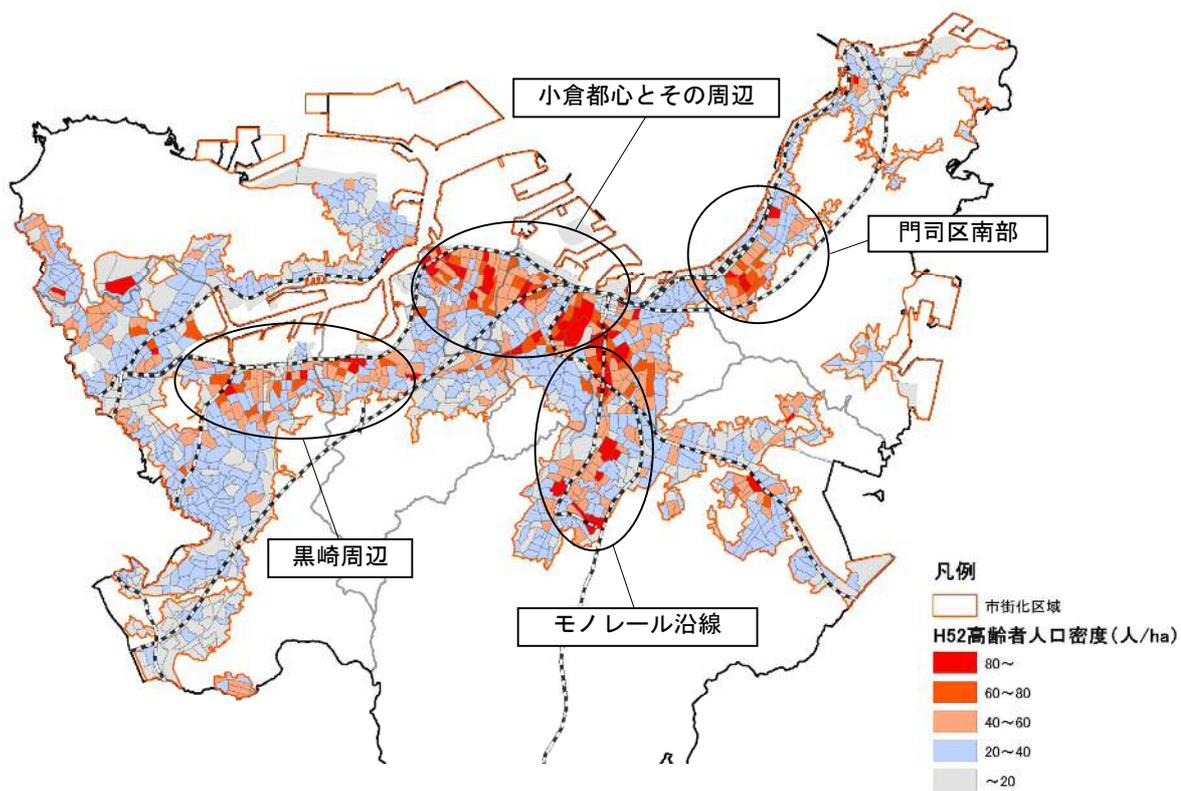


図 平成52年高齢者人口密度

④高齢化率

○将来の高齢化率を地区別に見ると、八幡東区、若松区東部、門司区北部などで高齢化率が高くなっています。

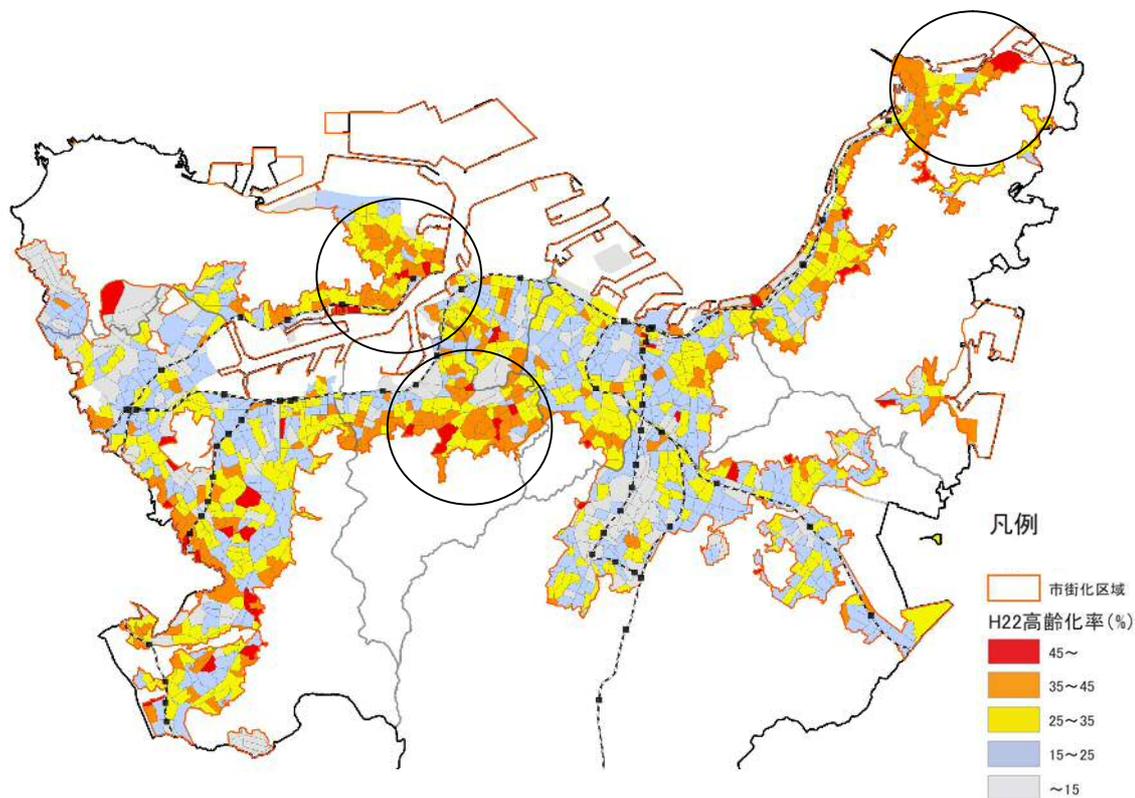


図 平成22年高齢化率

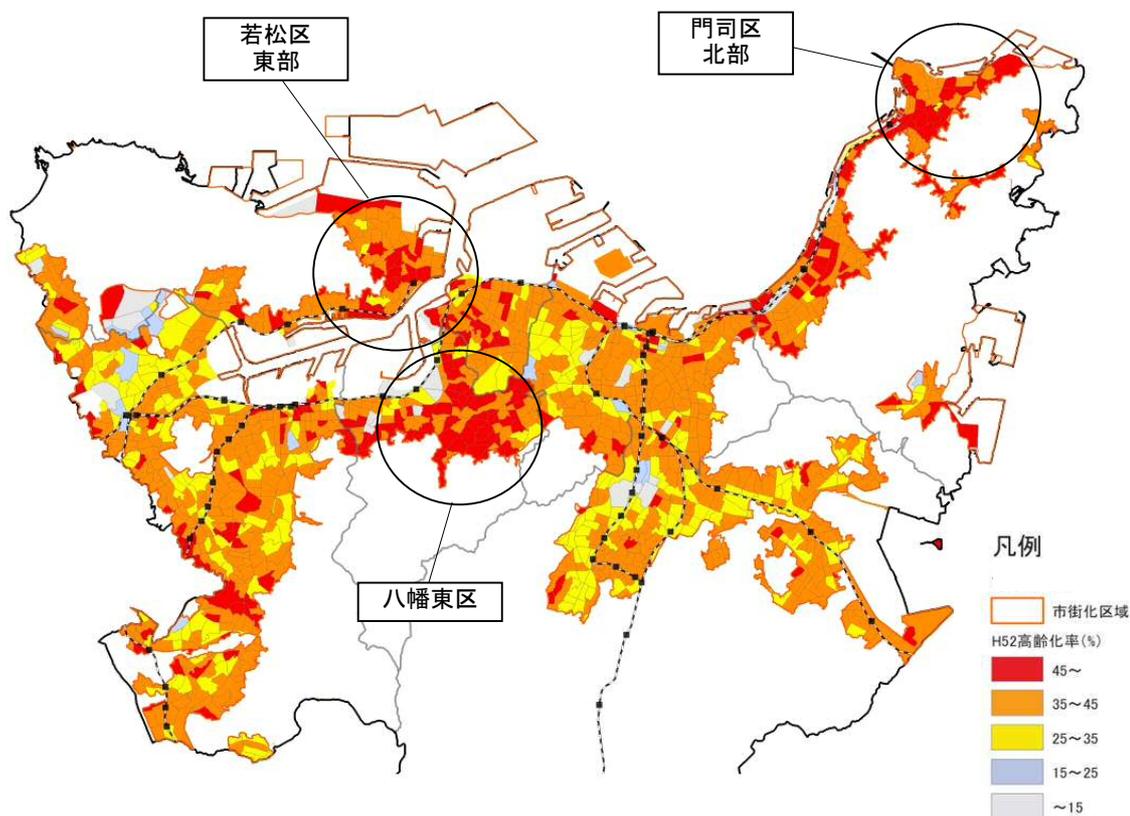


図 平成52年高齢化率

⑤年少人口

○全体的に年少人口は減少するものの、地区別に見ると、学研都市周辺、小倉都心とその周辺、モノレール沿線において、年少人口密度40人/ha以上の地域も存在します。

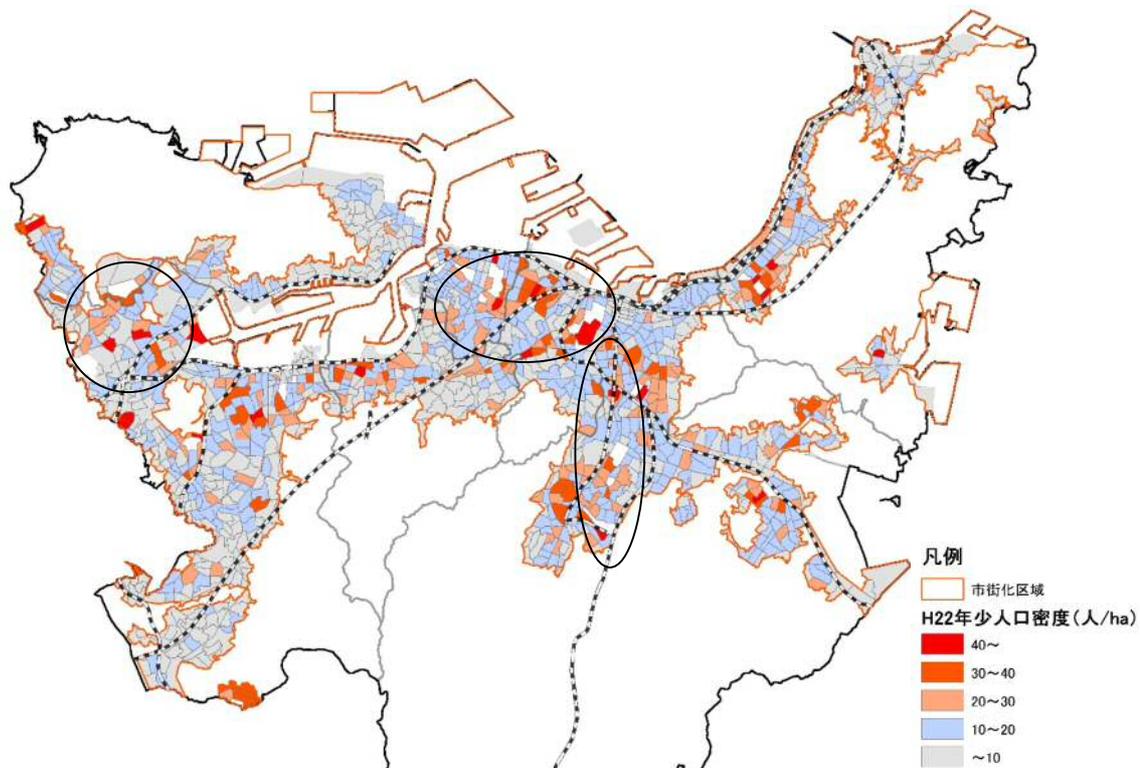


図 平成22年年少人口密度

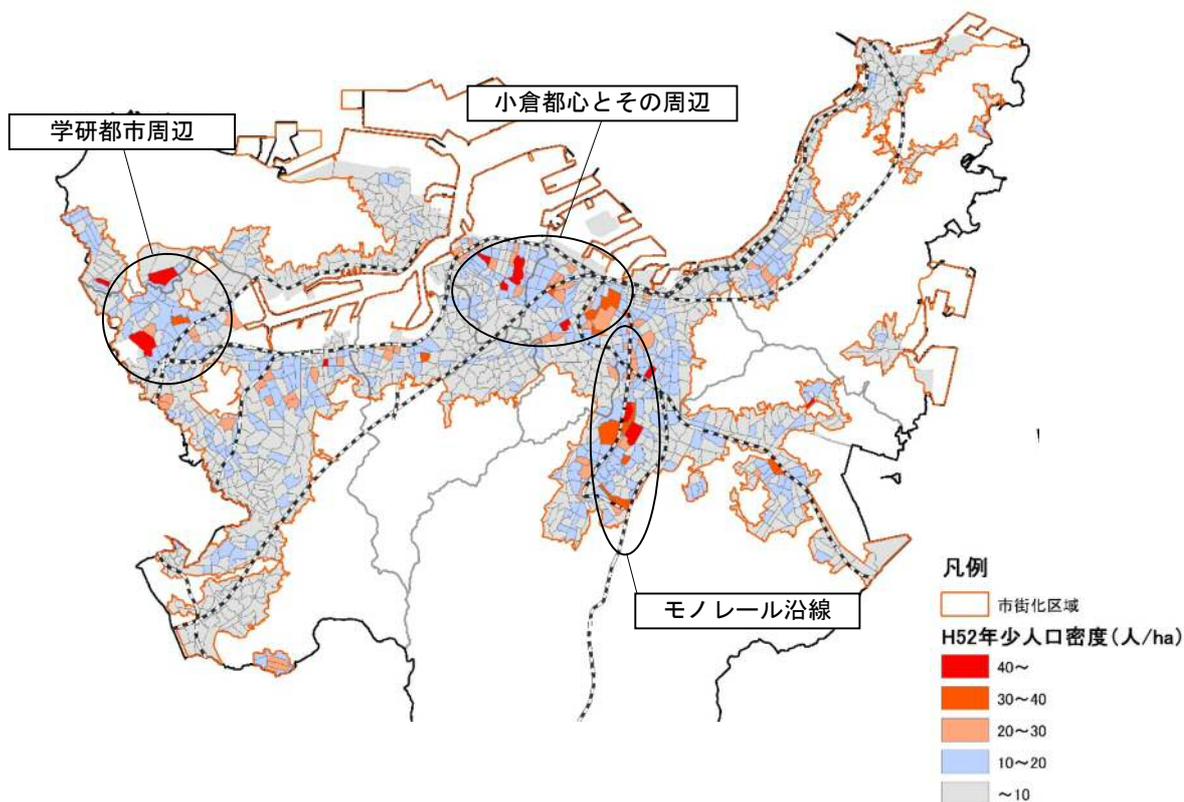


図 平成52年年少人口密度

⑥人口増減率・人口密度増減

- 人口増減率を地区別に見ると、八幡東区、若松区東部、門司区北部などでは人口減少率が高く、小倉南区西部、八幡西区北部などでは人口が増加しています。
- 人口密度増減を地区別に見ると、JR戸畑駅周辺、JR門司駅周辺などの中心市街部ほど密度の低下や減少率が大きく、小倉南区西部や八幡西区北部で密度が高くなっています。

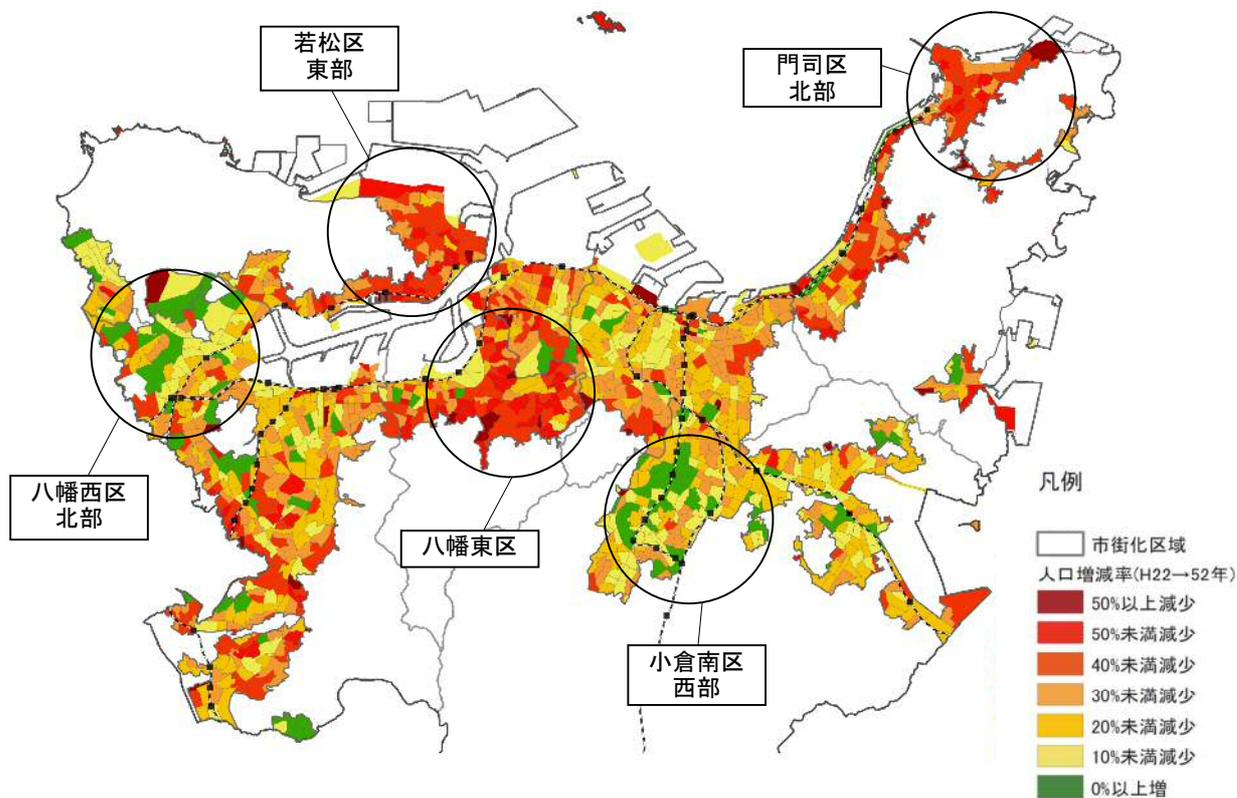


図 人口増減（平成22年⇒平成52年）

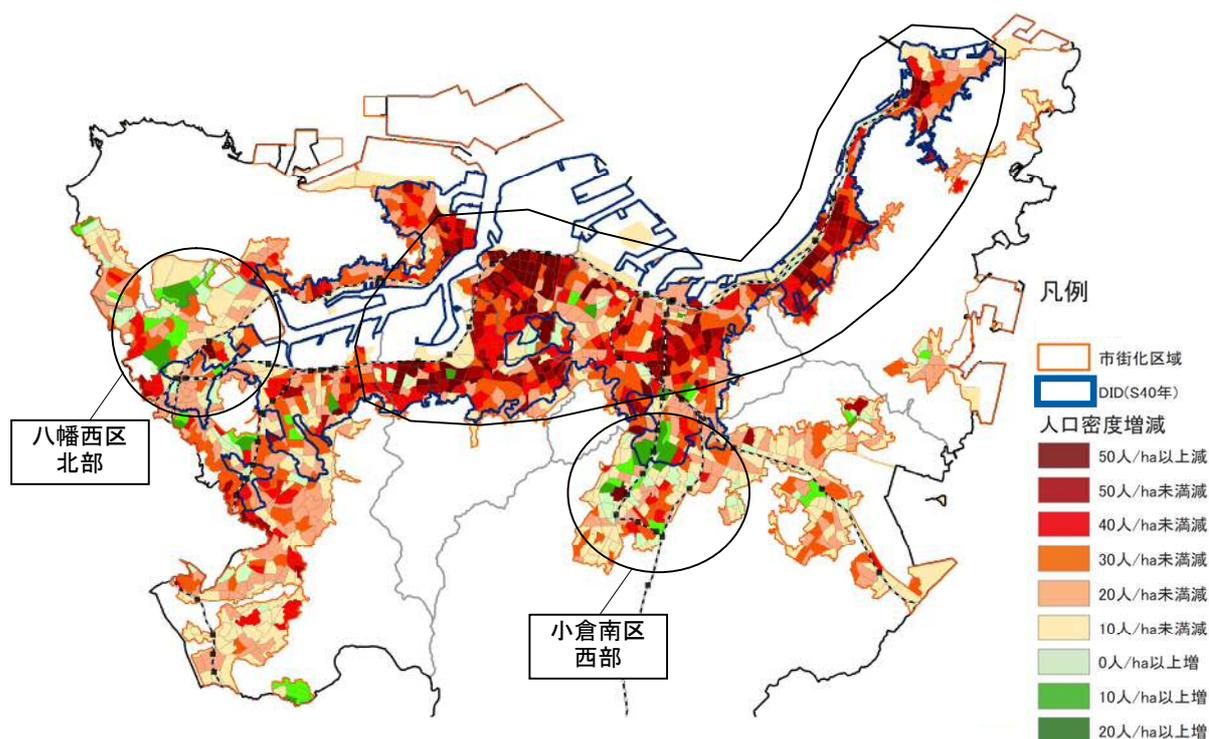


図 人口密度増減（平成22年⇒平成52年）

3-4 地形

- 本市は、海と山に近接し、平坦地が少ない地形特性に加え、臨海部は工場などの工業的な土地利用がなされたことから、狭い平坦地を中心に市街地が形成されています。
- 人口が増加していた時代（高度経済成長期）には、臨海部の工業地等と近接し通勤に便利な地域が居住地として選択されたこともあり、八幡東区や門司区、若松区などの斜面地においても市街地が形成されています。
- 市街化区域内の斜面地の多くは、宅地造成工事規制区域に指定されています。

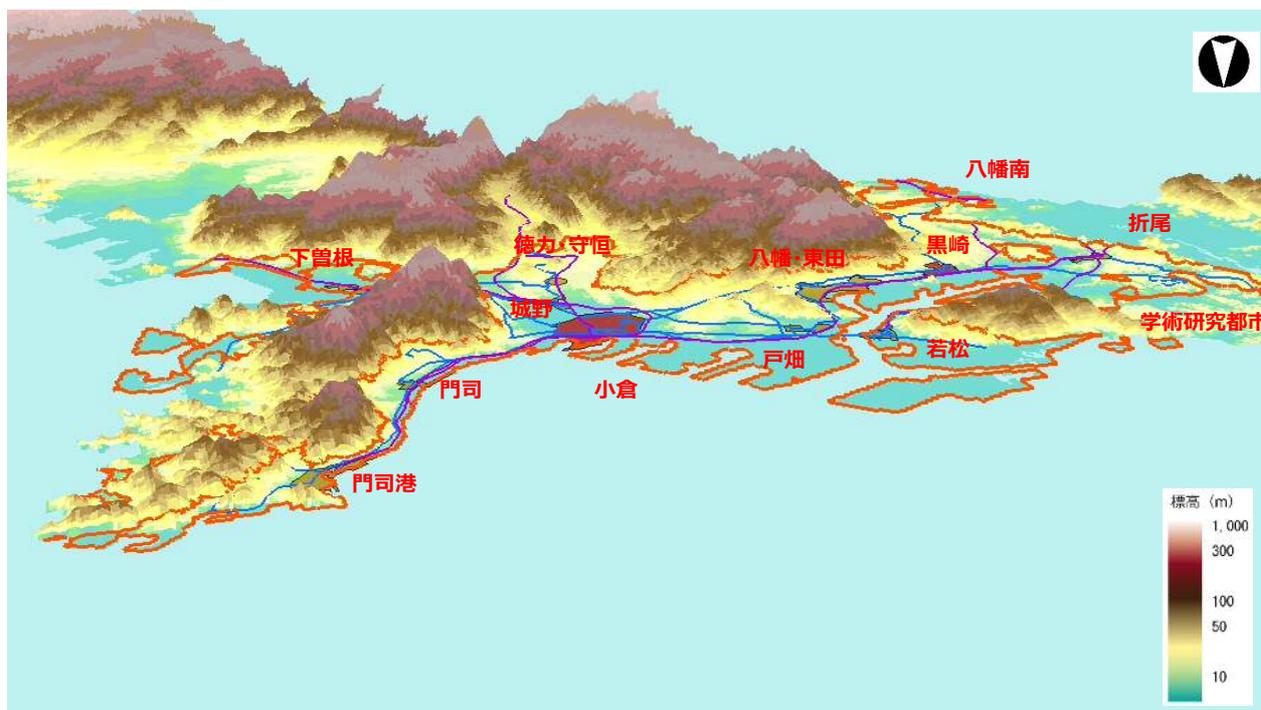


図 北九州市の鳥瞰

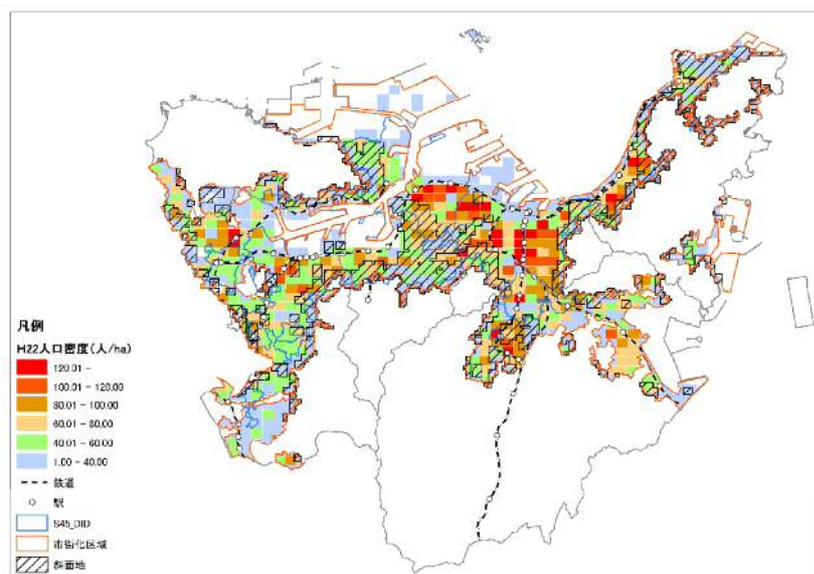


図 人口密度の状況(平成 22 年)

出典：人口密度は総務省「平成 22 年国勢調査」
 斜面地は「国土数値情報（標高傾斜度 5 次メッシュ（平成 23 年）」データによる平均傾斜角度 5 度以上メッシュ地域



図 斜面市街地内の状況



図 高齢者にとって移動しづらい斜面市街地

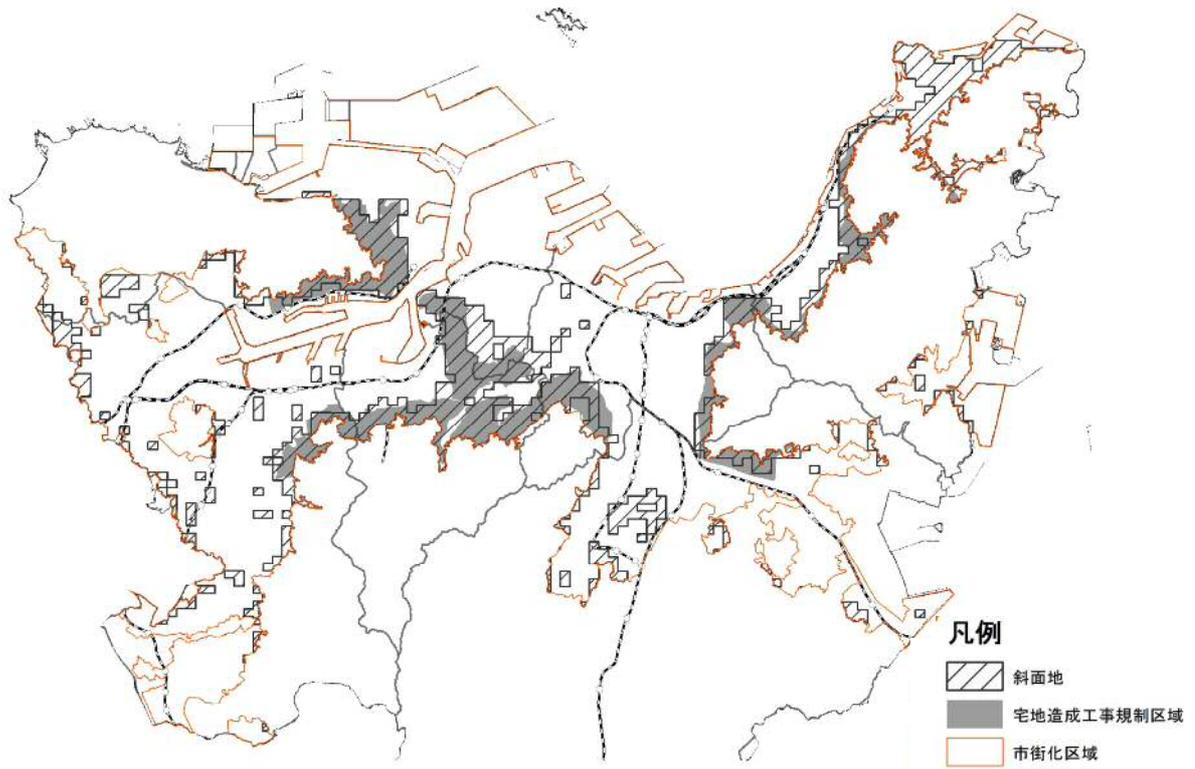


図 宅地造成工事規制と斜面地の関係

出典：斜面地は「国土数値情報（標高傾斜度 5 次メッシュ（平成 23 年））」データによる平均傾斜角度 5 度以上メッシュ地域

3-5 土地利用

(1) 用途地域の状況

○市街化区域は20,435haで、都市計画区域の41.8%を占めています。用途地域は住居系58.8%、商業系9.6%、工業系31.6%(うち、工業専用地域19.0%)で構成されています。

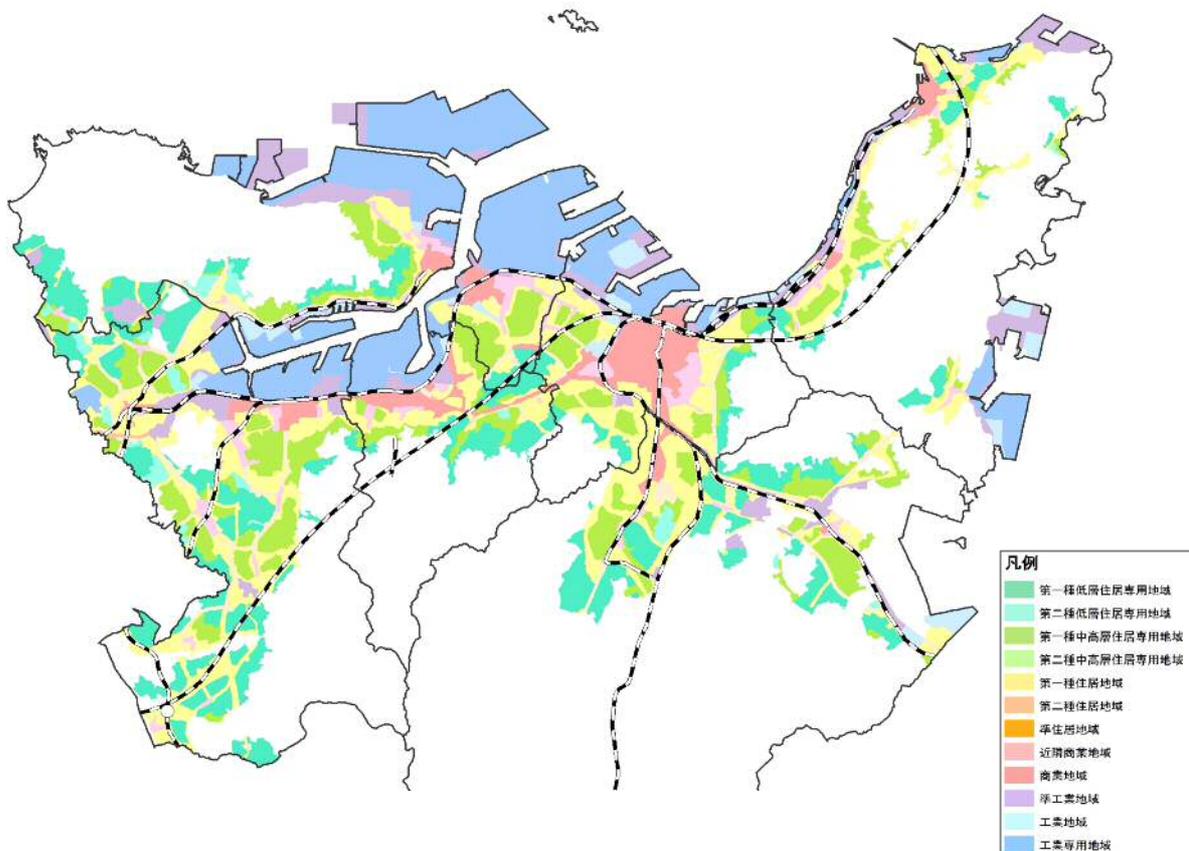


図 用途地域等指定状況

出典：北九州市「都市計画基礎調査」

表 用途地域等の面積

	面積 (ha)	都市計画区域に占める割合 (%)	市街化区域に占める割合 (%)
行政区域	49,195	---	---
都市計画区域	48,865	100.0	---
市街化区域	20,435	41.8	100.0
市街化区域 用途地域			
第1種低層住居専用地域	3,454	7.1	16.9
第2種低層住居専用地域	303	0.6	1.5
第1種中高層住居専用地域	2,961	6.1	14.5
第2種中高層住居専用地域	2	0.0	0.0
第1種住居地域	4,545	9.3	22.2
第2種住居地域	724	1.5	3.5
準住居地域	25	0.1	0.1
住居系地域(合計)	12,014	24.6	58.8
近隣商業地域	787	1.6	3.9
商業地域	1,179	2.4	5.8
商業系地域(合計)	1,966	4.0	9.6
準工業地域	1,995	4.1	9.8
工業地域	569	1.2	2.8
工業専用地域	3,891	8.0	19.0
工業系地域(合計)	6,455	13.2	31.6
市街化調整区域	28,430	50.0	---

出典：北九州市統計年鑑（平成26年版）および都市計画年報（平成25年）